

東坡、足かけ五年にわたる黄州流謫生活に別れを告げる

元豊七年（一〇八四）の春、黄州流謫を減刑して汝州（河南省）団練副使に移すとの命令が東坡のもとに届き、五年に及ぶ流罪生活から自由の身になった。彼は先ず左遷されていた弟の轍との再会を果たすべく黄州から南へ下り、途中、廬山に立ち寄った後、筠州（江西省高安）に向かっている。

その後、一〇八五年三月に神宗が崩じ、十歳の哲宗が即位、宣仁皇太后が政を執り、新法廃止が始まった。これに伴い、蘇軾は五月、名誉を回復して朝奉郎に復し、七月、知登州（山東）軍州事に任ぜられ、十月、登州に着任。ほどなく礼部郎中として召還される。

別黄州 黄州に別る

元豊七年四十九歳（一〇八四年）

病瘡老馬不任鞿

病瘡の老馬 鞿たづなに任たえざるに

猶向君王得敝帷

猶お君王よ向より敝帷へいゐを得

桑下豈無三宿戀

桑下 豈に三宿れんの恋無からんや

樽前聊與一身歸

樽前 聊こゝろか一身と帰せん

長腰尙載撐腸米

長腰 尙お載のす撐腸とうちようの米

闊領先裁蓋癭衣

闊領かつりよう 先さいず裁さいす 蓋癭がいえいの衣

投老江湖終不失

老いを江湖に投なげず 終に失なわらず

來時莫遣故人非

來る時 故人をして非そしらしむること莫なれ

（中国名詩選（下）川合康三 三一八頁 参照）